

## 事業継続のためのリスクアセスメントの合理化

日本に事業継続が紹介されてから約10年経過するが、きちんと事業継続計画を策定している例は極めて少ない。これまでの一連の研究を通じ、事業継続が普及しない理由として分析方法が不明解であることが挙げられる。このような分析方法を簡易に操作できるツールの開発を通じて、事業継続が普及されることを期待している。

本課題では以下の研究内容を遂行する。

- (1) 評価ツールのプロトタイプ構築(一般的な表計算ツールを用いたインターフェイス)
- (2) 2011年東北地方太平洋沖地震と2016年熊本地震の復旧モデルの導入(既往の成果をツールへ導入)
- (3) キャリブレーションのための本計算システムの適用(モデルの改善)

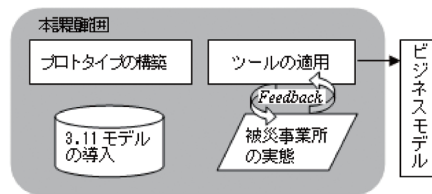


図 研究開発の流れ

- 計算ロジックは確立されている。
- 3.11モデルと2016年熊本地震モデルを導入する。
- 実際の復旧状況と比較し、モデルをフィードバックさせる。
- 最終的には本提案をビジネスモデルに組み込みたいと考えている。

事業継続は「やらなくてははいけない」と考えると億劫ですが、一度経験してみると事業の「見える化」が進み、リスクが顕在化します。常在戦場つねにリスクと向き合うことにより、筋肉質の会社を築けることでしょう。お気軽にご相談ください。



山岸 邦彰 教授

学部：環境・建築学部 学科：建築学科  
 所属研究所：地域防災環境科学研究所  
 博士(工学)・一級建築士・技術士(建設部門)。早稲田大学大学院理工学研究科(建設工学)修了。三井住友建設(株)を経て、平成21年本学准教授就任。平成28年現職。

Keyword

付加価値／耐震工学／事業継続